

# 北の農職家

KITA NO NOUSYOKUKA

2023

7

No.319

江別製粉株式会社



JAつべつ青年部 道内視察研修  
江別製粉(株)にて

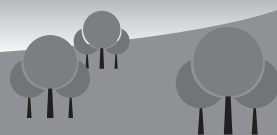
視察日程：6月12日(月)～13日(火)







# JA情報館



## 第1回津別スマート農業普及コンソーシアム キックオフ会議を開催

5月29日JAつべつ会議室にて29名（WEB参加3名含む）参加のもと津別スマート農業普及コンソーシアムキックオフ会議を開催しました。会議の内容は、現状と課題として、生産者戸数が減少しており労働力不足と高齢化が深刻な状況で、町内の大部分が中山間地であり、平地が少なく圃場は山間に細く伸びる形状をしている。圃場の一部が携帯電話の不感地帯でありICT化の阻害要因となっている。取組として、5つの課題（①生産者安否確認 ②トラクター自動操舵システム ③鳥獣検知システム ④気象ロボット ⑤水位監視システム）を主なテーマとして、町内の圃場エリア全域を無線網でエリア化する事を目指しています。



## JA役員コンプライアンス 研修を開催

5月31日JAつべつ会議室にて、第4回理事会終了後、今年度新たに就任された理事を含めて9名の役員が出席し、JA北海道中央会北見支所 田中主査を講師に迎えコンプライアンス研修を開催しました。



## 第25回JAつべつ杯ゴルフコンペを開催

6月3日ノーザンアークゴルフクラブ（北見市端野町）にて『第25回JAつべつ杯ゴルフコンペ』を各関係機関並びに取引先、組合員、一般町民44名参加のもと開催しました。

当日の天候は、前日夜間からの断続的な降雨・気温低下の中での開催となりました。開会式では、佐野成昭組合長の日頃の御礼も含めた開会宣言に続き、御来賓を代表して武部新衆議院議員から御祝辞を頂戴致しました。

佐野組合長・武部衆議院議員・新谷哲也網走漁協組合長・鹿中順一津別町議会議長による始球式を行い、参加者は11組に分かれ悪コンディションでありましたが、日頃の練習の成果を発揮し参加者相互の親睦を図りました。

プレー終了後、表彰式を開催し各関係機関並びに取引先より沢山の御協賛を頂き盛会に終了しました。

《大会結果》優 勝 古川 貴朗（ホクレン北見支所長）  
準優勝 工藤 一義  
1 位 深田 知明  
2 位 金林 晴雄（津別建設部長）  
3 位 鹿中 順一



## 津別町乳質改善協議会によるミルカー一点検実施

6月6日から3日間の日程でミルカー一点検を実施しました。津別町乳質改善協議会（中田晃一朗会長）では、生乳の品質管理と乳牛の健康管理を目的としたミルカー一点検を毎年実施しています。松原光則技師・高田優治技師・普及センター・森永乳業・明治乳業・NOSA I獣医師・JA職員が同行し、ミルカーシステムが正常に作動しているか、衛生的に管理されているかを、21項目について点検及び指導を行うことにより、健康な牛からの良質な美味しい牛乳を消費者に届けています。





## 中学2年生総合学習

### 「自分が食べている食料に興味を持とう！」

津別中学校（森本邦紀校長）2年生を対象に総合学習として、平成27年よりJAからの申し出で始まった「農業体験学習」が、今年も開催されました。

6月7日、農業体験の事前学習として、2年生32名が『日本・北海道・津別町農業の実態と課題』と題して、営農課有岡敏也嘱託が講師となり、3時限目と4時限目の授業として10時40分から12時30分まで約2時間座学を行いました。

授業のねらいは、「自分が食べている食料に興味を持ってほしい」「海外の農産物を食べることは、水・空気・土も外国産を食べることに自覚してほしい」ということです。

授業では『津別町農業と北海道農業の特徴』から始まり、『JAつべつとJAグループ北海道の役割』『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」等について説明し、問題形式を取りながら行いました。学生からは「一番つらい仕事は何ですか?」「津別の農業の未来は明るいですか?」等質問が出ました。



## 中学2年生 1回目の農業体験学習

6月13日天候は曇りでしたが、4カ所の受入組合員に中学2年生の生徒32が8名ずつに分かれて農業体験学習を行いました。中学校の先生方も5名引率され一緒に農業体験をされていました。

高台地区 石川剛さんの畑では、生徒さん達は5月25日頃に種子を播いた南瓜の草取りと、生えてこなかった所にもう一度種子を播いたり作業を行いました。みなさん黙々と真剣に作業をされていて、とても静かな現場でした。

上里地区(同)さんの農場では、ビニールハウスの中でズッキーニとキュウリの収穫とハウスの外では、玉葱の草取り等を4名ずつに分かれて作業をしていました。キュウリはウリ科キュウリ属ですが、ズッキーニは同じウリ科でも南瓜に属している等野菜の説明を受けました。生徒さんたちからは、大きな笑い声が聞こえていました。

上里地区(株)希来里ファームでは、南瓜の定植作業（苗植え）等を行いました。みんなで協力し合って手早く作業をしたので、あっという間に農作業が終わりました。

布川地区(株)柏葉ファームでは、搾乳体験と牛についての勉強等を行いました。牛の平熱の体温は38度で、目は白黒で物が見えている。なぜ食事の時に長い時間モグモグしているのか?等、わかりやすく柏葉宏樹さんに説明してもらいました。

次回は、8月22日に第2回農業体験学習を予定しています。



▲石川剛さんの南瓜畑で草取り



▲中央に立つ佐野奈津子さんに野菜の説明を受ける



▲しゃがんで玉葱の草取りをするので足が疲れた～



▲(株)希来里ファームで南瓜定植作業



▲搾乳体験



▲牛の前歯は下あごにしかないと説明





# JA情報館



## 6月7日降雹・渇水被害で2年連続作物に打撃受ける JAつべつ本所駐車場でも車両降雹災害

6月7日13時45分頃から20分程度、津別町で降雹被害が279ha（員外含む）ありました。地区別では、高台94.9ha、活汲60.2ha、西達美51.7haが大きく被害が出ました。作物別では、玉葱76ha、豆類64.2ha、甜菜60.8ha、馬鈴薯47.5ha、小麦30haと被害がありました。更に16時から35分程度豪雨が続き、大雨による冠水に加え、表土の流出も発生し19.2haの被害報告があり、降雹被害と合わせると被害合計面積は298.22ha。昨年6月の降雹被害面積は180haでしたので、約118ha程被害が大きかったです。

また、畑作地帯の被害の他、JAつべつ本所の駐車場でも、業務用車輦や職員の通勤車両に対しても降雹被害が及び、車両共済に加入していた車両55台程被害報告がありました。



## 高校3年生 職場体験を実施

津別高校（太田 徹校長）では令和元年度より、地域を知り課題解決能力を育むための探求授業「つべつ学」を実施しており、今年度は3年生が津別町の産業（ビジネス）の今と昔について探求を行い、その一環として職場実習・職場見学を実施しています。

6月15日3年生の安田伊織さんが、当JAの企業説明と業務体験を行いました。内容は、「JAの事業紹介」やJA施設（小麦調整乾燥工場・堆肥センター・子会社）案内、給油所体験、圃場巡回による生育調査の説明を受けました。

「日頃からJAの仕事に興味があり、実際事業説明や業務体験をさせて頂いて理解が深まり、事業ごとの活動に興味が高まりました」と感想をいただきました。



## 肥料価格高騰対策事業説明会を開催

6月20日JAつべつ会議室にて、津別町農業地域再生協議会主催のもと肥料価格高騰対策事業説明会を開催しました。出席者は生産者32名、役場2名、ホクレン北見支所生産資材課1名、JA職員8名の合計43名。

昨年に引続き今回2回目の説明会となる為、前回からの変更点や新たに加わった点を中心に説明し、申請方法を確認しました。







# JA情報館



## アソビバ! つべつ

### JAつべつ青年部と一緒に かかし作り・生育観察



6月10日アソビバ! つべつの子供たち25名と青年部7名(池田部長、岡本副部長、西原副部長、五島理事、迫田理事、田原理事、十河監事)、普及センター石垣職員、JA倉下職員の合計34名が参加して、2回目の食農教育事業として「かかし作りと生育観察」を行いました。

最初に中央公民館に集まり、7グループに分かれてかかし作りに取り掛かりました。合計8体の表情豊かなかかしが出来上がりました。今年は金髪の外人かかしは作られなかった様です。

次に(有)だいち裏の青年部畑に移動して、みんなでかかしを設置した後、青年部の西原副部長と五島理事から、田んぼの稲やいも、とうもろこし、おもちゃ南瓜の生育に関する説明を聞いて、アソビバ! つべつの子供たちは生育観察を行いました。

次回は、7月10日放課後に草取りをする予定です。



▲ミミズ獲ったド〜



JAつべつ青年部活動をSNSページにて随時更新中です!  
是非ご覧下さい! Facebook、Instagram

Facebook QR Instagram QR





# JA情報館



## JAつべつ青年部 町内草刈活動を実施

6月6日青年部(池田健太郎)では、部員21名にて町内の清掃活動の一環として津別町の要請を受けて毎年草刈りを行っています。今年の1回目の草刈りは、ラグビー場(豊永)周辺を等間隔に分かれて手際良く作業を行いました。



## JAつべつ青年部 道内視察研修報告

6月12日～13日にかけて、青年部部員20名が参加し道内視察研修を行いました。令和5年度の青年部の道内視察研修は、小麦をメインテーマに土づくり、試験場、製粉会社を視察しました。

早朝6時の出発でしたが、バスの中では会話や笑い声が響く楽しい道となりました。1日目は午前中、上富良野町の「土の館」を視察しました。館長より「土づくりとは? 土壌とは何か?」の説明を受け、土地条件の悪い圃場でも良くしていく努力を行えば、良い作物作りにつながる」と激励を頂きました。昼食は「ハーブガーデン富良野」で取った後、午後からは、長沼町の中央農場試験場で「きたほなみの気象変動に対応した施肥管理について」説明をしていただきました。安定確収についての栽培方法、干ばつにおいては、茎数が多い方が収量につながる等最新の技術を学習しました。また、中央農業試験場では、北見99号・北見100号の試験圃場を視察させていただき、今後の縮小抵抗性品種がきたほなみの品質と見た目に遜色なく出回ることに期待しました。

2日目は、8時50分に札幌のホテルを出発して江別市の江別製粉㈱の工場内の視察を実施し、自分たちが生産したものが製粉される過程を学びました。



▲土の館



▲土の館



▲中央農業試験場



▲中央農業試験場



▲江別製粉㈱

## JAつべつ青年部 スポーツ交流会を開催

6月23日共和野球場にて部員21名とJA職員9名の合計30名参加のもと、ソフトボールとキックベースの2競技を行いスポーツ交流を行いました。体を動かした後は、21世紀の森で焼き肉を行い、天気も良かったので飲物も美味しく、更に親睦を深める事が出来た様です。



▲ソフトボール



▲キックベース







# JA情報館



## 仮称 津別町大麦研究会設立総会を開催

6月26日JAつべつ会議室にて、仮称『津別町大麦研究会』設立総会を開催しました。

研究会設立事由として、つべつの第4の新規作物として今後の輪作体系の確立と普通小麦の縞萎縮病対策並びに作業の効率化、天候等災害によるリスク軽減を目的に、既存の生産者にて設立に至りました。生産実績は3年と月日が浅いため、安定・品質生産確立に向け当面は研究会として技術を確認していきます。位置付けとしては麦作協議会内の研究会で、将来的には、研究会から振興会へ発展させていきたいと考えています。

会長は中山和彦氏が就任し、令和5年度作付は3戸13ha。今後は、栽培技術講習会や実需者との懇談を予定しています。設立年月日は、令和5年6月26日。



## 年金友の会情報

### 第2回 ゲートボール大会

開催日：令和5年6月8日（木）

開催場所：豊永 屋内ゲートボール場

優勝：鹿中チーム

【鹿中 順一・土江 幸子・笠井キヨ子・  
今井 保・山下 昌子・藤原 利信】

準優勝：佐藤（朝）チーム【佐藤 朝代・佐野 信子・溝渕サカエ・手賀 武一・竹内 武二】

3位：佐藤（正）チーム【佐藤 正明・小野 勇・長尾 隆行・幅口 悦子・篠原 恒子】

4位：山田チーム【山田 照夫・細川 恵市・鍛冶 博光・五島 良雄・野本 弘子】

5位：井上チーム【井上 隆幸・柏木 茂・館野ヨシ子・奥村 照子・細川 順弘】



### 第2回 パークゴルフ大会

開催日：令和5年6月22日（木）

開催場所：豊永 さくら・いちいコース

男性の部

優勝：古澤 秀明（100）

準優勝：相馬 有（101）

3位：池田 康博（102）

4位：鹿中 順一（102）

5位：鍛冶 博光（104）

6位：山田 照夫（107）

7位：三島 宏章（108）



女性の部

優勝：佐藤 朝代（116）

準優勝：新谷 典子（118）

3位：篠原由記子（120）

4位：斉藤 清子（121）

5位：赤池 奎子（123）

6位：藤原 清恵（123）

7位：花井 静栄（124）



●ホールインワン賞 幅口 功 いちいB-1

# 営農課からのお知らせ



## 7月中旬から8月中旬までの営農技術について

### 畑作物

#### 【小麦】

本年の秋まき小麦の生育は、昨年播種後の生育は平年並でしたが、越冬後、雪腐病や縞萎縮病の発生によって圃場内の生育ムラが見られます。5月の降雨不足もあり、生育のばらつきも見られます。コンバインの運行に当たっては、圃場内の成熟状況も確認の上、計画を立てて下さい。

##### 収穫（適期収穫）

- ① 圃場の子実水分や乾燥状況を調べ、適期収穫に努めて下さい。
- ② コンバイン収穫時の子実水分は、30%未満を目標として下さい。
- ③ 倒伏・穂発芽・赤かび病等の異常麦は別刈りとし、小麦の品質管理に努めて下さい。
- ④ 高水分小麦は異臭麦発生の原因となるので、収穫後速やかに乾燥施設へ搬入して下さい。
- ⑤ 雑草が繁茂した圃場の抜き取りを可能な限り実施して下さい。

#### 【ばれいしょ】

##### 軟腐病

昨年はトヨシロを中心に軟腐病の発生が多い年となりました。このため、本年も発生に注意が必要です。

7～8月が高温多湿に経過する年に多く、倒伏した圃場で発生被害が多くなります。薬剤による予防散布を行って下さい。耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用はしないで下さい。特に、オキシソリニック酸剤は低感受性菌が、ストレプトマイシン剤は耐性菌が出現している地域があるので薬剤の選定に注意して下さい。

##### ■軟腐病防除薬剤系統（農協防除ガイド記載薬剤）

成 分 名	薬 剤 名
銅(塩基性硫酸銅)(塩基性塩化銅)(水酸化第二銅)	ドイツボルドー・クプロシールド・クミガードSC
ストレプトマイシン	アグレプト液剤
ストレプトマシン・銅(塩基性塩化銅)	銅ストマイ
オキシソリニック酸	スターナ水和剤
オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン・銅(水酸化第二銅)	バクテサイド水和剤

#### 【豆 類】

追肥は、生育や根粒菌の着生状況を確認して要否を判断して下さい。

##### (1) 大豆

生育後半に根粒菌の活性が劣る圃場では、7月中～下旬の「開花始」頃に窒素量5kg/10a程度を施用する必要があります。ただし、透水性が不良な場合、根粒菌の着生が不良となる場合があるため、根粒菌着生数に基づき追肥の要否を判断して下さい。

##### (2) 小豆

生育が劣っている場合や地力が低い場合は、7月中旬頃（第3本葉展開期）に窒素量5kg/10a程度の追肥を行う必要があります。過度な窒素追肥は、葉落ちを悪くし収穫を遅らせるので行わないようにしましょう。



## 園芸作物

### 【たまねぎ】

病害虫では白斑葉枯病やネギアザミウマの重点防除時期を迎えます。生育期や病害虫の発生状況に応じた適切な管理を行って下さい。

#### （１）白斑葉枯病

薬剤選定に当たっては、薬剤ごとの残効を考慮するとともに、同一系統薬剤の連用を避け、最終散布は倒伏期の15日前頃として下さい。

#### （２）ネギアザミウマ

気温の上昇によりネギアザミウマは活動が活発となり、7月以降に被害が大きくなる恐れがあります。薬剤散布は、ほぼ全ての株に軽微な食害が認められたら防除を開始します。この条件にならない時は7月10日から薬剤散布を開始し、最終散布は、7月20日以降に薬剤を散布したら終了として下さい。尚、ピレスロイド系薬剤抵抗性ネギアザミウマの発生が全道で広く確認されています。抵抗性ネギアザミウマの発生が確認されていない地域においても、ピレスロイド系薬剤の連用・多用は避け、散布後は防除効果の確認に努めて下さい。

#### ■たまねぎで利用できるピレスロイド系薬剤（農協防除ガイド記載薬剤）

ピレスロイド系薬剤	サイハロン乳剤、マブリックEW、ペイオフME、ゲットアウトWDG、
-----------	-----------------------------------

## 土壌のpHは大丈夫ですか？

馬鈴しょそうか病の発生を懸念するあまり、土壌への石灰施用を控える傾向があるようです。そうか病の常発地帯は別として、カルシウムは土壌のpHを改善するだけでなく、作物にとって重要な養分です。大豆やてん菜などはカルシウムの吸肥量が多く、生育に大きな影響を与えます。また、春まき小麦や大麦は酸性圃場では生育できず、播種後徐々に枯死してしまいますので、予めpHを確認して作付けする必要があります。

そこでお勧めなのが、「ニッテンライム」です。通常の石灰資材（炭カル：アルカリ分53%）よりpHの矯正力は33%と落ちますが、その分カルシウムの補給はでき、コントラによる散布作業を委託できることから、安価で散布まで実施できます。散布量としては炭カルで必要とされる量の1.2倍程度となります。

作物に健全な生育をさせるためにも土壌pHの適正化を図って下さい。畑作物における圃場のpHは5.5～6.5となっていますが、5.5はてんさいそう根病、ばれいしょそうか病対策基準です。

できれば6.0以上に矯正することが望ましいのです。

目安として「ニッテンライム」は土壌20cm改良深で10a当たり350kgで現在のpHをおおよそ0.5上げることができます。

事前にFAX等でご案内していると思いますが、ご検討お願いします。

**お問い合わせは生産資材課（76-3430）まで**



▲ライムケーキ散布風景（南ムトウ農機部品）

## 「大地と海をつなぐ植樹」開催 網走川流域農業・漁業連携推進協議会 「樹を植えて豊かな海を育てましょう！」

6月21日（火）10時より、青空が広がる気温25度超えの夏日の中、だいちとうみの会開催による『大地と海をつなぐ植樹』が、網走川最上地区河川敷で関係者172人が集まり400本の植樹を行いました。

「自然環境の保全と回復に努め、豊かな自然を未来に残すことの大切さと海の大地に関わる産業の共存と共生」を目的として、「樹を植えて豊かな海を育てましょう！」を合い言葉に、植樹活動を実施しております。

植樹は、網走漁協が平成元年に始め、平成22年に同協議会を立ち上げ、平成23年から実施しています。

会を代表して新谷哲也会長（網走漁協組合長）が「網走川流域の自然環境を守る人の輪が継続していることは大変うれしい事です」と挨拶し、地元を代表して津別町伊藤副町長の挨拶の後、各自で持参した剣先スコップで広葉樹400本（ヤチダモ100本、カツラ100本、ハルニレ100本、ケヤマハンノキ100本）を植樹しました。植樹終了後は、JAつべつ活波事業所裏の人参倉庫にて、石館西網走漁協組合長の挨拶の後、お弁当の他に、網走漁協と西網走漁協の御協力のもとカニを囲んで交流会（昼食会）を行いました。最後に山田照夫副会長の閉会挨拶で交流会を終了致しました。



▲新谷網走漁協組合長

▲伊藤副町長

▲石館西網走漁協組合長

## 網走川流域一斉清掃事業を実施

6月18日網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地の恵みを次世代に引き継ぐ事を目的に、本年度も網走川流域の会主催による「網走川流域一斉清掃」を実施しました。本事業は網走川流域の1市3町が同時に行い、河川環境の意識醸成を期待し、津別地区は、午前9時から豊永さくら公園付近の津別川沿いを、一般参加者と津別町役場職員・JAつべつ青年部の合計16名の参加で約1時間の清掃活動にて約60kgのゴミを収集し終了しました。網走市、大空町、美幌町を含めて全体では、354名参加でゴミ収集は430kgでした。ボランティアで参加いただいた参加者の皆さん、大変お疲れ様でした。



## 網走川流域農業・漁業連携推進協議会総会

6月28日網走市内において、網走川流域農業・漁業連携推進協議会第12回総会が開催されました。新谷会長（網走漁協組合長）の開会挨拶、オホーツク総合振興局ほか来賓各位の祝辞を賜り審議に入りました。

新年度事業として過去に植樹を行った場所の下草刈り等の整備事業が追加承認され、議事は全て承認されました。





# 第五回理事会報告

開催日 令和5年6月27日

## 報告事項

- ① 令和5年度四半期監査（4月末）結果について
- ② 令和5年5月末財務状況について
- ③ 余裕金の運用実績について
- ④ 令和5年産ジャガイモシストセンチュウ検診結果について
- ⑤ 融資実行状況の報告について
- ⑥ 固定資産の取得について
- ⑦ 各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
- ⑧ 各課報告事項について

## 付議事項

- 議案第1号 令和5年度農産物取引に伴う基準金利について
- 議案第2号 理事に対する令和5年度クミカン供給認定の見直しについて
- 議案第3号 出資金の持分譲渡について

## 協議事項

- ① 組合員戸別訪問の実施について
- ② 組合員交流会の開催について
- ③ 連合会との意見交換会について
- ④ 次期振興計画・中期経営計画について
- ⑤ 夏季懇談会の提案事項について

乃木坂46が特別審査員を務める

## 「私たちの『国消国産』川柳コンテスト」を開催 ～応募条件は国産農畜産物を愛していること！～

J Aグループは、特に若年層に向けて、J Aグループが提起する「国産国消※」について理解いただくことや、日本の食や農業の現場などを知り国産農畜産物の魅力を再発見していただくことを目的に、令和2年12月より乃木坂46の協力を得て、特設ウェブサイトでの展開を中心に、さまざまな情報発信を行ってまいりました。

今般、その一環として、皆さん一人ひとりが考える国産の農畜産物の魅力や日本農業への想いを募集する「私たちの『国消国産』川柳コンテスト」を、6月15日から9月4日の間で開催します。国産農畜産物を愛する全ての方が応募可能です。応募は、特設ウェブサイト上の川柳コンテストページにある応募フォームや郵便はがきなどで受け付けます。

当コンテストは、一般の部と、小学生、中・高生の部に分かれています。大賞の商品として、一般の部では国産のお肉や果物5万円相当分と産地直送通販サイト「J Aタウン」で利用できるギフトカード5万円分を、小学生、中・高生の部では図書カード3万円分を贈呈します。ぜひご応募ください。

詳細は以下バナーをクリック、もしくは二次元バーコードを読み取って、ご確認ください（川柳コンテストページへ移行します）。



川柳コンテストページ  
QRコード

※「国消国産」とは、「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」というJ Aグループが提起する考え方。



# アグリアクション北海道の実践に向けて

## アグリアクション北海道とは…

アグリアクションは、消費者に対して農業（アグリ）から行動を起こすことで、農業や食に対する理解を求め、消費者は、消費することや情報発信などを通じて北海道農業、食を応援する（リアクション）ことを目指すものであり、農業と消費者がお互いにコミュニケーションを取ることを目指して名付けられたものである。

コロナ禍や国際紛争の影響で、私たちの生活は大きな影響を受けています。組合員・JA・連合会が消費者に対して行う食料安全保障の必要性の訴求、北海道産農畜産物の消費拡大を目指した情報発信を総称して「アグリアクション北海道」といいます。

「アグリアクション北海道」は誰にでも実践することができます。

## 組合員としてできること…

アグリアクション北海道の着実な実践には、組合員1人ひとりの行動が大切です。

身近にできるアグリアクションとしては、しっかりと生産者の思いを伝えることが求められます。消費者に対して、アクションを起こすことこそがアグリアクションの第一歩になります。まずは、地域の消費者に対してメッセージを発信していきましょう。

また、SNS等を活用した情報発信もアグリアクション北海道の実践において重要です。農業や食に関する投稿には「#アグリアクション北海道」をつけて実践を多くの人に拡散していきましょう

1人ひとりの小さなアクションが大きな力となって、消費者の理解醸成につながります。

# AGRIACTION!

## HOKKAIDO



JAつべつ

# 2023夏のプレゼント企画

開催期間: 7/3日~8/31日

特別  
金利

店頭金利×5倍=0.01%

(期間中、下記の新規契約の方)

## 定期貯金

契約額 **10万円以上**  
預入期間: **1年限定**  
(自動継続限定)

定期貯金ご契約の方 **数量  
限定**



**大容量折りたたみ  
保冷バッグ  
プレゼント!!**

## 定期積金

契約額 **12万円以上**  
預入期間: **1年以上**  
(口座振替限定)

定期積金ご契約の方 **数量  
限定**



**ハンドル付  
ステンレスカップ  
2Pプレゼント!!**

対象  
条件

1. 個人のお客様に限ります。
2. お預入は、新たにお預入いただく資金といたします。
3. 初回満期時の自動継続後は、継続日における店頭金利を適用します。
4. 中途解約された場合は、当JA所定の中途解約利率を適用させていただきます。
5. 定期貯金/預入期間1年以上・定期積金/掛込期間1年以上。
6. 預入金額10万円以上1,000万円未満の新規または増額書換。(但し、満期の利息分は増額に含めません)
7. 定期積金満期後に預入条件を満たした新たな再契約も対象です。
8. 複数同一名義は1点に限らせて頂きます。

©よりぞう



JA 津別町農業協同組合

金融共済課

☎77-3170

# 7月下旬・8月上旬の主な行事

7月	15日	土	夏祭り	8月	1日	火	経営会議
	16日	日	夏祭り		2日	水	高校生職場体験
	17日	月	海の日		3日	木	年金友の会役員会
	18日	火	年金無料相談会		4日	金	
	19日	水	夏季懇談会		5日	土	七夕まつり
	20日	木	職員全体会議		6日	日	
	21日	金	理事会、玉葱精算総会		7日	月	
	22日	土			8日	火	
	23日	日			9日	水	農業労働力支援協議会・広域てん菜戦略推進コンソーシアム総会
	24日	月			10日	木	
	25日	火	道条例検査～28日		11日	金	山の日
	26日	水			12日	土	指定休日
	27日	木	年金友の会パークゴルフ大会		13日	日	
	28日	金			14日	月	
	29日	土			15日	火	お盆休み
	30日	日			16日	水	お盆休み
	31日	月	美幌広域連総会				



自家製の米粉ミックスでつくるお菓子  
ふんわり、さっくり。  
軽やかなレシピ



いのちのガーデン  
北の森で暮らす  
車椅子のガーデナー



はじめての苔インテリア  
苔テラリウムから  
苔玉、苔盆栽まで

## 【6月号の訂正】

4ページに掲載した『アソビバ! つべつ』の記事について、「津別町役場と連携し」と記載しましたが、「津別町教育委員会」が主催しており、記事に誤りがありました事をお詫び申し上げます。

また、「アソビバ! つべつは、小学生から中学生を対象に、津別町にある大地・山・森林・川など豊富なフィールドと地域の人材を活用した20事業ほどの様々な体験活動を行っている団体で、その一つとして食農教育事業は、年間を通して「農業体験」をJAつべつ青年部と連携し行っています。

お世話になりました。

経済部畜産課  
森井 友理子



退職挨拶

この度一身上の都合により、6月末日をもって退職致しました。約9年間の間、皆様から多くの指導ご支援を頂きまして心から感謝しております。この貴重な経験を今後も活かしていきたいと思っております。  
末筆になりますが、JAの発展と皆様のご健康をお祈り申し上げ退職の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。